



臨濟宗妙心寺派

富春山桂林寺 落慶

平成28年6月4日



住職挨拶

この度は、長年の懸案でありました本堂の新築完成を見る
ことができました。

平成二十五年三月に本堂新築の計画が具体化し、翌年の六月には旧本堂の取り壊しが行われ、七月に地鎮祭を挙行し、引き続き基礎工事に取り掛かり約二か年の工期を経て完成に
いたしました。

今思えばこの短期間に完成することができましたのも、檀
信徒の皆様が桂林寺を思う心が一つになればこそ、この大事
業が成し得たものと思っております。檀信徒の皆様初め法縁寺院
様、関係各位の皆様には深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

開創六百二十三年の歴史に新たな一ページを刻んだこの事
業を契機として、今後、さらに幅の広い視野を持って寺の活
動はもとより、地域に根差した活動の拠点としていきたいと
考えておりますので、皆様のお力添えをお願い申し上げます。

桂林寺の歴史

明徳四年（一三九三年）この地に遊化した鎌倉建長寺の格
智禅師（かくちぜんじ）に深く帰依した領主小山田信澄（道号「
富春」）が禅師を開山に請じ、その名を山号として当寺を創建
致しました。

戦国時代に入り武田家が滅ぶと、小山田家も断絶し寺は荒
廃しました。後に中興開山、安山宗泰（あんざんそうたい）和尚
（諡号「大光覚雲禅師」）の活躍により寺は一時二十八箇所の末
寺を持つ小本山としての格を有し、建長寺派から妙心寺派へ
移りました。

当寺は明治に二度の火災に遭い、運慶作と伝わる釈迦如来
像や狩野探幽の襖絵などの宝物と共に焼失。その後本堂は明
治二十五年（一八九二年）に川棚にあった正観寺を移築し約
百二十年にわたり使用して参りました。

そして本日、平成二十八年六月四日。皆様の篤志により新
本堂落慶の日を迎えることができました。



頑丈な基礎を築きました。

本堂内



天上の高い開放感のある空間になりました。

寺号額



静岡臨濟寺の無底窟老大師に揮毫して頂いた寺号を桂林寺副住職が彫り、本堂内正面に掛けました。

桂林寺の紹介

桂林寺は郡内小山田氏初期の菩提寺で、本堂脇には一族の碑が多数あり、「小山田家伝世の板碑」は市有形文化財となっています。



大門の入口に白隠禅師筆の万霊塔が現存しています。



都留市天然記念物の彼岸桜



桜と桃の共演や裏庭の睡蓮はテレビや新聞でも紹介される花の名所となっています。



叶が池（パワースポット）願いが「叶う池」と呼ばれ金井の地名の起源にもなった小さな池。山梨の民話にも紹介されています。



直径約1m 長さ約13m 重さ約3.7 tの梁を使用しました。

位牌堂



檀信徒の先祖代々のお位牌も新しくなり、位牌堂に納めました。



桂林寺と縁の深い白隠禅師筆の掛け軸を小林正二様が御寄進下さいました。

材料は全て国産のものを使用しました。



庫裡



椅子席でお休み頂けるようになりました。



三菱財閥の創業者、岩崎弥太郎氏の旧別荘にありました五重塔や手水鉢などを奥秋正春様が御寄進下さいました。

檀信徒の皆さまへの記念品



数珠は桂林寺の旧本堂の古材（松）と新本堂の余材（樺）で誂えました。記念品の袋には無底窟老大師に染筆頂いた新本堂の屋根の棟に挙げられた山号を印刷しました。

